令和６年度　山梨県果樹試験場試験研究課題評価結果

1　評価委員名

伊東　明子（国立研究開発法人　農業・食品産業技術総合研究機構
果樹茶業研究部門　研究推進部長）

武藤　雅美（山梨県果樹園芸会　会長）

山口　正己（学識経験者　元東京農業大学農学部　客員教授）

奥田　徹　（山梨大学　理事、副学長）

手塚　英男（南アルプス市農業協同組合　営農指導部次長）

2　評価実施日

第１回課題評価会議（事前・中間：書面開催）　令和６年８月

第２回課題評価会議（中間・事後：通常開催）　令和７年１月 24 日

3　評価課題

(1)事前評価課題

ア）大課題名：新データとICTを利用したハウスの自動制御とブドウの高品質・安定生産
（成長戦略研究　R7～9）

小課題名：１サンシャインレッドのハウス栽培技術の確立（R7～9）

小課題名：２シャインマスカットの高温対策・高品質化技術の確立（R7～9）

イ）大課題名：「シャインマスカット」の安定生産・輸出拡大に向けた病害虫対策の確立
（成長戦略研究　R7～9）

小課題名：１黒とう病対策の強化（R7～9）

小課題名：２コナカイガラムシ類対策の強化（R7～9）

小課題名：３ブドウの海外輸出対策（R7～9）

(2)中間評価課題

ア）大課題名：醸造用ブドウ品種・系統の選抜（R2～）

小課題名：１山梨県のフラッグシップとなる欧州系醸造用品種の選抜
～ワイン特性の解明～（成長戦略研究　R5～7）

※評価対象期間　R5～6

イ）大課題名：醸造用ブドウの高品質・安定生産技術の確立（県単独研究　H28～R7）

小課題名：１「甲州」の安定生産技術の確立

小課題名：２欧州系品種の高品質・安定生産技術の確立

※評価対象期間　R4～6

ウ）大課題名：ブドウ及び核果類等の病害虫薬剤防除法の改善（県単独研究　S54～）

小課題名：１環境に配慮した病害虫防除法の改善

※評価対象期間　R4～6

エ）大課題名：ブドウ・モモの新しい窒素施肥基準の作成（成長戦略研究　R5～7）

小課題名：１ブドウ優良品種の特性調査と栽培技術の確立(第６次)

小課題名：２モモ園の可給態窒素含量の実態把握

※評価対象期間　R5～6

(3)事後評価

ア）大課題名：ブドウ晩腐病防除対策の総点検～菌種と生態の視点から～

（成長戦略研究　R4～6）

小課題名：１菌種別の分布と生態的特徴の調査

小課題名：２有効薬剤の選抜

4　具体的な評価点、評価所見

（評価点の目安）

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

様式7

事前評価報告書

令和６年９月９日（月）

研究種別	成長戦略研究
研究課題名	データとICTを利用したハウスの自動制御とブドウの高品質・安定生産
研究期間	令和７年度　～　令和９年度

評価項目		評価点
1	研究の必要性	4.6
2	研究内容の新規性	3.8
3	研究目標、研究計画の妥当性	4.0
4	研究予算、研究体制の妥当性	3.8
	総合評点	4.1

[評価所見]

安定高品質を省力的に実現するという現場のニーズ・課題解決のために必要な課題である。個別の環境要素がターゲットとするブドウの品質に与える影響をそれぞれに評価することができれば、生産者にとって有用な情報になる。それをさらに一歩進め、目標とする環境条件をどれだけ精緻かつ簡便に制御できるか、必要なスペックとコストを勘案し、利用可能な様々なサービスをも組み合わせて実現されることを期待する。

サンシャインレッドの加温体系の確立は必要なものだと思う。農家の収益向上が期待できる課題であるため、早期の成果を期待する。

市場競争力を高めることは、果樹県である山梨には非常に重要である。付加価値が高い生食用ブドウだけに、付加価値をあげたい。競争力を上げるためにどうしたいのか？他県との差別化のためにも、暑い山梨の生き残りのためにも、もっと予算を付け、積極的な対策を実験してはどうか。

研究の必要性、計画、予算、人員配置とも適切であり、目標達成の可能性が高い研究計画であると評価される。現有施設、人員の制約もあると思われるが、設定条件を複数化することでより早く、適切な温度条件が把握できると思われる。また、担当者の負担軽減のためには、複数担当者を配置することが望ましいと思われる。

施設でのシャインマスカットの安定生産技術の確立やオリジナル品種であり増殖が進んでいるサンシャイレッドの品質向上や温暖化による高温対策など、県内作物で作付面積・市場流通が増えていることからも一日も早い普及が望まれる。

様式7

事前評価報告書

令和６年９月９日（月）

研究種別	成長戦略研究
研究課題名	「シャインマスカット」の安定生産・輸出拡大にむけた病害虫対策の確立
研究期間	令和７年度　～　令和９年度

評価項目		評価点
1	研究の必要性	4.2
2	研究内容の新規性	4.2
3	研究目標、研究計画の妥当性	3.6
4	研究予算、研究体制の妥当性	3.6
	総合評点	3.9

[評価所見]

輸出拡大に向けて輸出検疫や残留農薬の問題を解決するためには個別病害虫の生態にあわせた防除技術の体系化とその効果の検証が必須であり、適切な研究計画が立案されていると考える。良い成果が創出されることを期待する。

近年コナカイガラムシの被害が多い状況であり課題解決する必要がある。新規性は高い。

輸出できることは「最低条件」であり、他県との差別化をどう図るのかが問われている。重要な課題であるため、早急な対策をお願いしたい。

本課題は、ブドウ生産の安定化、輸出における病虫害、残留農薬等の障害を解消するための対策を明らかににすることを目的としており、現場のニーズに応えている。得られる成果は、生産現場に速やかに普及すると考えられ、研究の着実な進展が期待される。

シャインマスカットにおいて、黒とう病、コナカイガラムシ類は防除の課題となっており早期対策が望まれる。複数年の事例から、病害虫対策の成果が期待できるため、しっかりとした研究計画を確実に実行してもらいたい。

様式8

中間評価報告書

令和６年９月９日（月）

研 究 種 別	成長戦略課題	
研究課題名	山梨県のフラッグシップとなる欧州系醸造用品種の選抜 ～ワイン特製の解明～	
研 究 期 間	令和５年度　～　令和７年度	
評価項目		評価点
1	研究計画の進捗度及び今後の研究計画の妥当性	3.4

[評価所見]

供試した6品種・7系統について、異なる2拠点で栽培した果実から1年目の醸造を行い、ワイン品質が評価できている。また3品種について、品種ごとの最適収穫時期を明らかにするため、果実特性の評価が順調に行われている。生育特性・ワイン醸造特性を引き続き複数年度検証すること、また着手できていなかったマルスランのウイルスフリー化に取り組むことで、当初計画は達成可能と考える。研究は順調に進捗しており、引き続き計画通り進めていただきたい。

実際のワインでの評価も行われており、良い方向性と感じる。期待している。ワイン酒造組合との関係が重要になる。官能検査などは、組合が主導して行い、成果を利用してもらうような努力が必要である。

醸造用ブドウの導入品種系統について、栽培地の標高や、収穫時期を変えてワイン品質の評価が進められ、品種系統によるワイン酒質の差異や栽培環境、収穫時期が品質に及ぼす影響等が明らかになりつつある。本課題は研究計画以上に進展しており、目標達成が可能であると評価される。可能であれば、江曾原、明野の環境条件の違いをより詳細に比較してほしい。

標高差による特性や収穫適期の解明や新たに導入する品種特性の解明など、温暖化による対策が急務となっており、年次経過とともに解明が進んでいる。要望品種や絞り込みを行なった品種など成果が出始めており、山梨県の地形や気候に対応した品種の普及に期待したい。

様式8

中間評価報告書

令和６年９月９日（月）

研究種別	県単独研究	
研究課題名	醸造用ブドウの高品質・安定生産技術の確立	
研究期間	平成28年～令和７年度	
評価項目		評価点
1	研究計画の進捗度及び今後の研究計画の妥当性	3.8

[評価所見]

当初計画に沿って順調にデータが蓄積されていると考える。今後、蓄積したデータに基づき、醸造用ブドウの高品質安定生産技術の開発に資する知見が得られるものと期待できる。現場が優位性を判断できる、総合的な評価指標をわかりやすく提示いただけることを期待する。

様々な角度から実験が行われており、進捗にも問題はないと感じる。現場では役に立つ知識になると思う。「果実品質」とは何か、酒造組合とすり合わせた方が良いと感じた。同じ畑の場合、萌芽～開花、開花～Veraison、Veraison～収穫は短い方が良いVintageとのデータがある（Bordeaux）。土地が違う場合、気温以外が同じ条件なら良いが、天候が異なるので、比較することに疑問を感じた。ワインの品質を本当の意味で高品質化することが求められるようになっている。その意味で、収量や糖度ではなく、ワインの微妙な品質を明確に数値化する官能評価が重要ではないかと考える。

長期間を要する課題であるが、これまでにも多くの重要な成果が得られており、目標達成は可能であると考えられる。なお、気象条件が果実品質に及ぼす影響については、令和6年度までに蓄積されたデータの解析を行い、最終年度には、解析結果に基づき、重点的に解析を行うことも有効ではないかと思われる。今後の成果の取りまとめと公表を期待する。

醸造ブドウでの台木の選定や整枝せん定など垣根仕立ての技術確立から成木以降の特性を継続して調査しており、技術確立に向けて進められている。醸造専用種の技術普及に向けて期待したい。

様式8

中間評価報告書

令和７年１月２４日（金）

研究種別	県単独研究	
研究課題名	環境に配慮した病害虫防除法の改善	
研究期間	昭和54年～	
評価項目		評価点
1	研究計画の進捗度及び今後の研究計画の妥当性	4.0

[評価所見]

一害虫・一病害に対する対策を構築することが目的ではなく、それらが栽培体系の中でうまく機能することが目的と思う。難しい課題ではあるが、「全体最適化」するという視点で、今後も取り組んでいただきたい。

十分に目標を達成出来ると思う。農家として実践的なことでありがたい。

有機栽培などに注目が集まっているため、課題の重要性は高まっている。これらを考え、天敵類やフェロモン、物理的防除の検討っを進めてほしい。

病虫害の発生は、生産に直接的な被害を及ぼすことから、本課題は着実に進めることが求められており、今後の研究の進行に期待したい。また、有機栽培等への消費者の関心の高まりがあることから、薬剤使用の低減や耕種的手法による被害回避についても取り組みを強化してほしい。

薬剤試験は、病害虫科による結果が出ているが、概要でも触れている環境配慮への試験結果も期待したい。

様式8

中間評価報告書

令和７年１月２４日（金）

研究種別	成長戦略課題	
研究課題名	ブドウ・モモの新しい窒素施肥基準の作成	
研究期間	令和５年度　～　令和７年度	
評価項目		評価点
1	研究計画の進捗度及び今後の研究計画の妥当性	4.4

[評価所見]

得られた貴重なデータを、年間の施肥体系にどのように落とし込むかが成果発信の肝となると思う。冬（晩秋）の施肥は、植物体側の肥料吸収能力が低下する時期であり、多くが土壌から流脱して吸収されないとの知見もあることから、広く当該分野の知見も収集しながら、わかりやすい成果にまとめていただきたい。

環境面でも重要な研究なので、結果を出してもらいたい

ワイン用ブドウでも重要な課題である。基礎的だが続けていただきたい。

従来経験に頼っていた施肥について、実態に基づいた施肥法の改善が目標とされ、施肥の有効性向上、環境負荷の低減、生産コストの低減などにつながる課題であり、今後の着実な進行が期待される。

結果次第では、今後の栽培体系の見直しや、肥料の散布時期ならびに施用量など改革する可能性など、将来性のある研究結果としてみている。

様式9　　　　　　　事後評価報告書

果樹試験場評価会議　令和7年1月24日

研究種別	成長戦略研究	
研究課題名	ブドウ晩腐病防除対策の総点検～菌種と生態の視点から～	
研究期間	令和４年度　～　令和６年度	
評価項目		平均点
1	研究目標の達成度	4.6

重要病害であるブドウ晩腐病について、県内に分布する菌の分類を明らかにするとともに、効果の高い剤を選択し、圃場での効果を確認するなど、必要な一連の研究が実施されている。現場で被害を軽減させるための技術として提供できる段階まで到達しており、研究の目的は達成できたと判断する。引き続き、県内の発生状況のモニタリングを的確に行い、状況の変化に即応できる体制の維持をお願いしたい。

晩腐病に対し有効な薬剤を示した成果が農家としてありがたい。

世界的な課題と考え、良い成果が出ていると思う。展着材の影響なども知りたい。有機栽培の観点から考えると、物理的防除が重要であるので、この研究も進めてほしい。現場への応用も進み良い研究になっている。

ブドウの重要病害である晩腐病について、県内の多くの園地から採取した菌のDNA解析により、本病の病原菌種を特定し防除の基礎的な知見を得ている。また、本菌種にミギワ20フロアブルが高い防除効果を有すること、袋掛け前の散布が特に高い効果を持つことなど、防除法についても有効な手法が解明されたことは重要な成果であり、本課題は計画通りに遂行され、大きな成果を上げたと評価される。R6年度終了課題であるが、耐性菌発生の抑制法、有効な耕種的防除法の検討など新たな課題の設定が期待される。

菌種が明らかとなり、薬剤試験も系統別に行われた。今回特効薬とされた「ミギワ20フロアブル」を果樹防除暦の防除体系に組み込むことで、難防除とされてきた晩腐病が封じ込め可能になったことは称賛に値する。スタッフの情熱と熱意に敬意を表する。